



No. 141 2021. 1

(株) よかネット

NETWORK

旧矢部中学校の活用

～「学びの部屋」及び紅茶伝道師「川口米吉資料館」製作ものがたり ----- 2

【寄稿】 Covid19 感染拡大における観光振興策の転換

～ベースラインの変化と新たなピボット～ ----- 5

見・聞・食

宗像・日の里団地モデル

～既存住棟を活用した生活利便施設づくり ----- 11

近況

50 年後の未来を妄想する ----- 13

地域を維持するための方策 ----- 14

さあ、どこへ行く 2021 年 ----- 15

さらに女性が活躍する時代に期待する ----- 16

コロナに振り回された 1 年を振り返る ----- 16

オタ活コロナに邪魔される ----- 17

『理想と現実を行ったり来たり』 ----- 18

あけましておめでとうございます！ ----- 18

今年こそは沖縄に行きたい！！ ----- 19

BOOKS

天神エリア・博多駅エリアの花の計画

～「花の美しい都市・福岡」の実現をめざして～ ----- 19

●人生 2 度目の東京オリンピックを体験する人は人口の約 4 割

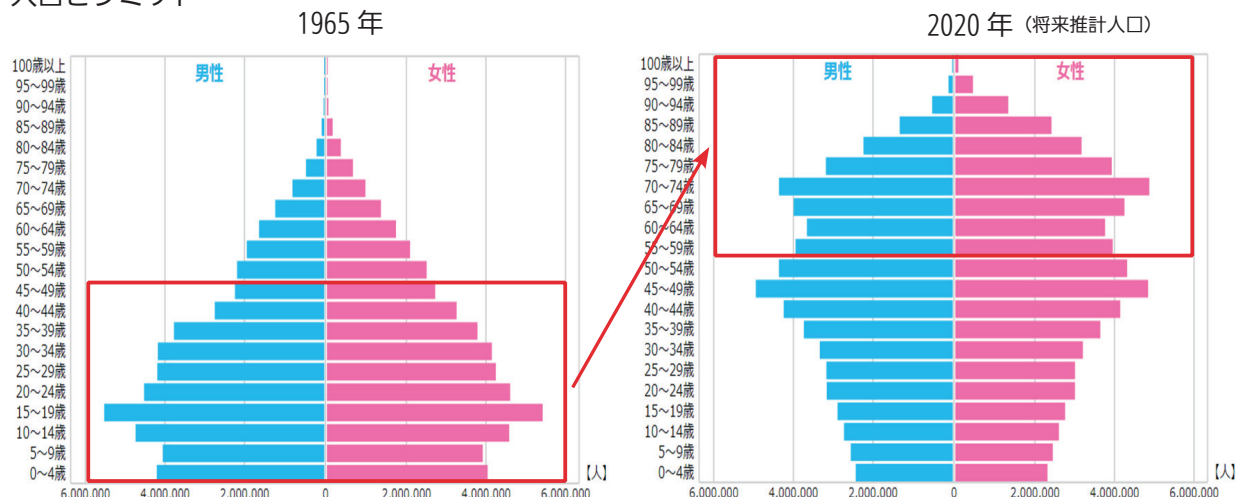
本年 7 月 23 日に開幕を迎える東京オリンピックですが、御存知の通り東京では 1964 年にもオリンピックが開催されました。そこで前回のオリンピックから 57 年の時を経て、2 つのオリンピックを体験する人がどのくらいいるのか調べてみました。

1965 年の日本の総人口は 99, 209 千人、2020 年は 125, 325 千人。このうち、1964 年の東京オリンピックを体験した、2020 時点で 56 歳以上の人口は 49, 787 千人、総人口の約 4 割になります。一方 1965 年時点での 55 歳以上の人口は、約 14%しかなく、中高年人口の伸びが大きいことが分かります。

寿命が延び、人口構成はピラミッドからつば型へと進化し、「昔のオリンピック」にまつわる話のできる元気な中高年層がたくさんいらっしゃいます。

高齢化社会は、高齢者と若い世代がともに過ごす時間を楽しむことができ、若い人は様々な高齢者と接する機会のある社会です。これからの社会が、世代間の交流や知恵・記憶の継承がすすみ、ますます多様性を喜ぶ社会であってほしいと思います。

人口ピラミッド



旧矢部中学校の活用

～「学びの部屋」及び紅茶伝道師「川口米吉資料館」製作ものがたり

山田 龍雄

旧矢部村は、福岡県南東部にあり、峠を越えれば大分県旧中津江村、日田市に通じる山峡の地域ですが、平成 22 年に八女市と合併しました。八女市は、上陽町、黒木町、立花町、矢部村、星野村と合わせて 1 市 3 町 2 村の大合併が行われ、市域面積は約 482 ㎢と福岡県内で北九州市に次いで 2 番目に広い市となっています。

最近、少子化の影響で児童数が減少し、学校の統廃合が盛んに行われており、廃校になった学校及び跡地の活用が大きな地域課題となっています。

廃校になった学校の活用について調べていたときに、旧矢部中学校の活用を知り、取材してみました。

●旧矢部中学校を地元有志の希望と出資により保存する

旧矢部中学校は、昭和 18 年に国民学校として建てられ、戦後、昭和 22 年に新しい教育基本法による新制中学設置に伴い、この校舎を矢部中学校として活用したことから始まります。

校舎は、木造 2 階建てで壁面を支えている斜

めの袖壁は建物に安定感とシンボル性を醸し出しており、非常に味わいのある建物となっています。この木造校舎は、今年で建築後 76 年目を迎えます。矢部中学校は、平成 15 年に生徒数の減少と教育活動の充実を図るため、新校舎が建てられることとなりましたが、歴史と伝統ある校舎を廃棄するのは忍びないという卒業生や地域の有志等の願いもあって、同年に「矢部中学校旧校舎保存会」が組織され、「世界子ども愛樹祭コンクール」応募作品の展示を基調とした「ふるさと矢部」を語る学び舎「杣のふるさと文化館」として平成 18 年にオープンしました。

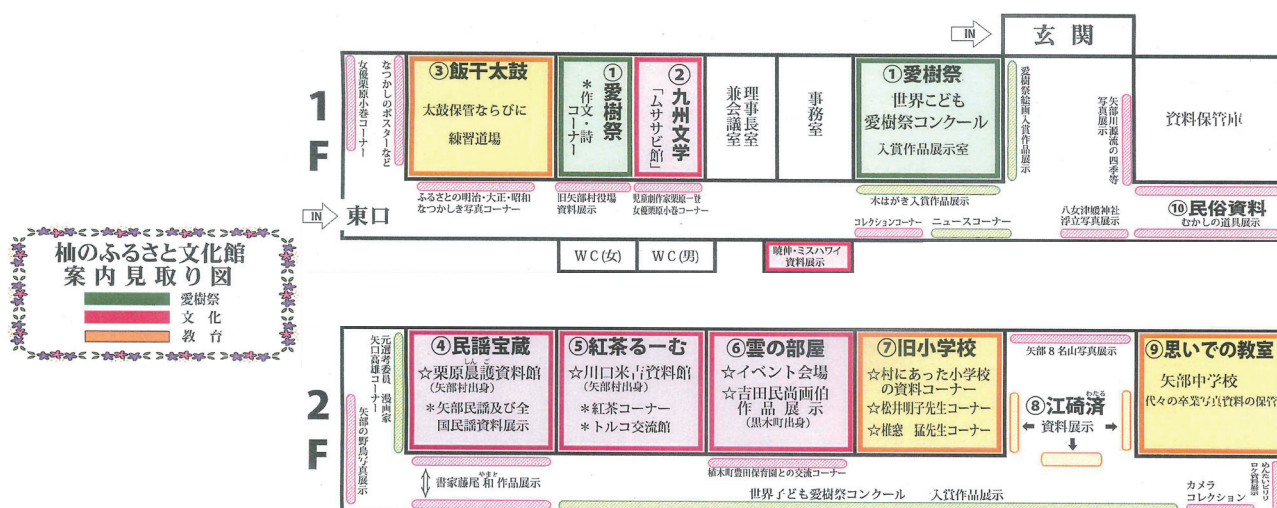
ちなみに「世界子ども愛樹祭」とは、矢部村出身の劇作家栗原一登先生の提唱のもとに「森と村の会 会長」高木文雄氏（元国鉄総裁）の支援を受け、地球環境・緑ゆたかな自然を守り、心ゆたかな生活を希望し、愛樹の心を描く絵画、詩、作文、木ハガキ等を世界 20 数か国に呼びかけて、コンクールを行っているもので、現在、展示室・保管庫には 6 万点以上の作品が保存されています。

建物の修復改造費は、卒業生や旧職員にも呼びかけて 6 百万円の寄付金と日本財団の助成を

矢部村の位置
大分県、熊本県の県境の山峡の村



旧矢部村中学校～「杣のふるさと文化館」として再生



柚のふるさと文化館の見取り図(平成30年 5月)

受けています。運営は、八女市から指定管理の委託を受けている「NPO 法人世界子ども愛樹祭コンクール・コスモネット」が行っています。

●旧矢部村の歴史や地域に貢献した人の資料等を保管・展示する施設としての活用と改修計画

「柚のふるさと文化館」は、1階、2階合わせて16の展示コーナーがありましたが、平成24年9月初めごろに2階の作品収蔵庫を矢部村出身で明治後期に紅茶製法を伝授した川口米吉氏の展示室兼喫茶ルームにしようという話が持ち上がり、同年の11月にオープンしています。「川口米吉資料館」は、矢部村で製造された紅茶が飲めるコーナーと米吉氏の記録展示コーナーで構成されています。

八女地方の紅茶は、明治政府の奨励でロシア、アメリカなどへの輸出品となっていたことから、川口米吉氏は、明治27年に八女郡笠原村紅茶伝習所の研究生となり、明治28年に茶業組合紅茶精製所にて紅茶科を卒業するやいなや翌年から明治35年ごろまで福岡県浮羽や佐賀県背振村など九州各地を廻り、紅茶製造の技術を教えていたとのこと。米吉氏は、まさに日本の紅茶技術の伝道師のひとりです。

川口米吉氏は、90歳を過ぎても牛を引いて山に堆肥を運び、茶葉を栽培し、自ら製造した紅茶も残っているそうです。昭和39年に94歳で逝去されました。

この旧矢部中学校は建物のデザインも含めて、矢部地域の歴史や矢部出身の人たちの思いが籠った建物であり、息長く後世に受け継がれていければと思います。

2年後の平成26年には2階の学校沿革展示室を矢部村の教育に貢献のあった人の展示室「学びの部屋」に改装する話が持ち上がり、資料整理や話し合いに時間を要し、平成30年に「学びの部屋」としてオープンしています。この部屋には、社会科資料作成のため、約5年間小倉から矢部村に通って村の調査・研究をされた松井明子先生のコーナーおよび矢部村出身の詩人で、教育職にあり校長、教育長を歴任された椎窓猛先生のコーナーで構成されています。このコーナー椎窓先生の教師時代の児童たちの記録・作品集のほか、水墨画・著書・文庫・出版物などが展示されています。

●片道4時間かけて通い、展示の改修の企画・プロデュースをした田中瞳さん

この改装のディスプレイ企画をお願いされ、展示内装の基本設計、総合プロデュースを実施されたのが田中瞳さんです。ここで田中さんのことを紹介したいと思います。

田中さんと初めてお会いしたのは、20数年前に「(NPO) グラウンドワーク福岡」の企画で行われた「八女福島地区まち歩き・お宝発見」に参加したときでした。その後、弊社の地域ゼミ



紅茶の伝道師～「川口米吉氏の資料館」の玄関口看板



紅茶の伝道師～「川口米吉氏の資料館」喫茶コーナーもある

やイベントなどでお世話になっています。

田中さんは、お母様が委託業として始めた大学の学生食堂の経営を受け継いだ後、新聞社、テレビ局、証券会社の社員食堂を経営するなど、20数年間の天神周辺での活動を基として、飲食業コンサルタント、店舗改装プラン、各種イベント企画、まちづくりなどに携わってこれました。

田中さんと話をすると私も知らない建築家やヨーロッパで活躍されている建築写真家（武藤聖氏）の名前がでてきます。田中さんに紹介頂いた武藤さんには、弊社の地域ゼミでお話をいただきました。

田中さんは本当に形あるもの、デザインが好きな方です。特に建築や街並み景観にはこだわりを持っておられ、平成7年には「天神ファンクラブ」を結成し、フランスの著名な建築家ジャン・ヌーベル氏を招き、天神の街並みを検証するまち歩き・講演会を企画されています。



矢部村の教育等に貢献のあった人々の記録展示の部屋～「学びの部屋」の内部

最近では、博多駅前にある磯崎新設計の西日本シティ銀行本店の保存活動を個人的に行い、建築家三浦紀之氏の紹介により東京で催された磯崎新先生の「プリツカー賞」受賞記念講演会に出かけ、保存への協力をお願いする手紙を直に渡したとのこと。田中さんは、改装設計を学校で学んだ訳ではなく、これまでの店舗経営やアドバイスをしてきた経験を基にした独学ですが、そのセンスは素晴らしいものがあります。

八女市にある老舗のお茶屋さんの店舗改装では、まずは自ら清掃から始め、古くなった昔の筆筒を製品棚として再利用するなど、ステキな空間を作り出しています。

田中さんが、今回、旧矢部中学校で改装を手掛けられたのは「学びの部屋」と「川口米吉資料館」です。矢部村にとって貴重な記録展示に関わった田中さんですが、あいにく車の運転ができません。車でも2時間はかかるところを、電車で福岡から久留米、久留米から西鉄バスで八女営業所へ、堀川バスに乗り換え矢部村へと電車・バスを乗り継いで4時間（往復8時間）かけて現地を訪れ、現地計測、担当者や大工さんとの打ち合わせなどで、足掛け3年、概ね80回通ったそうです。田中さん曰く「3年間の矢部村は通勤地と思った。早朝のバス、電車での通勤はOL気分でした。歳を忘れさせてくれた。」とのこと。

田中さんは「手入れして、復活し、輝いた素晴らしい木造の学校建築に係る皆さんが驚き、喜んでくれたことが最大の喜びでした」と

おしゃっています。その後、地元の中学3年生が休み時間に月一度、この校舎の雑巾掛けをしています。

田中さんが、ほぼボランティアで改装設計、監理までされ、後世に受け継がれる意義ある仕事をされたことに感銘を受け、筆を執った次第です。

紅茶、旧矢部村の歴史、教育に興味のある方は是非、「柚のふるさと文化館」にお出かけください。(やまだ たつお)

【寄稿】

Covid19 感染拡大における 観光振興策の転換

～ベースラインの変化と新たなピボット～

立教大学名誉教授 村上 和夫

新型コロナウイルス感染症 (Covid19) の感染拡大により 2020 年 4 月 7 日に政府は、緊急事態宣言を発出した。その結果、国民は移動を自粛し、経済活動も停止に近い状態になった。その後、緊急事態が治ったとして 5 月 25 日に解除宣言が行われたものの、感染は第二波、第三波と繰り返され今日に至っている。

図 1 は、株式会社帝国データバンクによる企業倒産件数の推移であるが、緊急事態宣言解除後も倒産企業が多い状態が継続している事を示している。

中でも「飲食業」(119 件)、「ホテル・旅館」(68 件)などの観光地や都市の繁華街を構成する企業の倒産が多い。さらに認可を得て営業する「タクシー・バス運行」(13 件)、「旅行代理業」(9 件)においても残念ながら倒産した企業があった。

1. 緊急経済対策の実施 (GoTo トラベル)

人々の移動自粛により、観光産業全体で、倒産まで至らなくても厳しい経営状態に陥っている企業は少なくない。政府は、旅行需要の回復・地域の観光関連消費の喚起・安全で安心な旅のスタイルの普及定着を目標に「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」の中で「GoTo トラベル」事業を 2020 年 7 月末に開始した。これにより、酷い地域では前年比 10%以下にまで落ち込んだ観光者数も徐々に回復が見られるように

なった。緊急事態宣言下の 5 月、解除直後ならびに第二波が訪れた夏の観光需要は少なかったが、秋口からは明らかに増加を見るようになってきた。中には前年同時期よりも増加した施設も散見された。

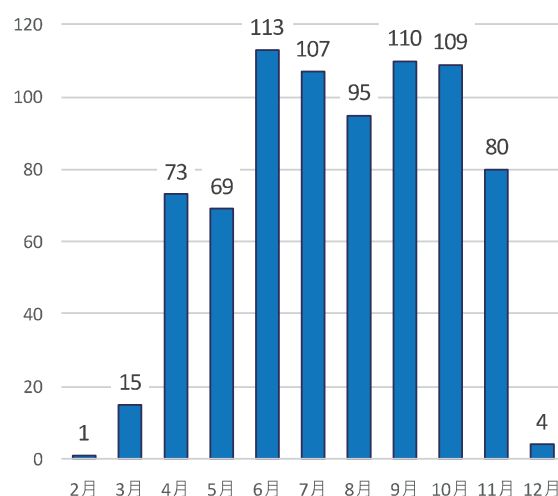
2. 「GoTo トラベル」が生む課題とは

この「緊急事態宣言→緊急経済対策の実施」の流れは、観光産業ならびに観光地の運営にどのような影響を及ぼしたのであろうか。国内旅行を活性化しようとする「GoTo トラベル」事業は、落ち込んだ観光産業に対する緊急対策として、業界からは評価できるものであろう。そもそも、経済・社会文化面への波及効果が大きいのが観光産業の特徴であり、この種の振興策は経済政策としても価値が高いはずである。

しかしながら、「GoTo トラベル」事業により、観光客数に増加が見られたからと言って早計にコロナ禍以前の状態に観光客が戻り、同様の運営が可能となると考える事は難しい。

まず、少なくとも感染防止策を徹底する必要がある。それが観光地運営の新たなベースラインとなる。その上で施設設備そして関連するサービスの改善は必須である。例えば、宿泊施設ではbuffet式の食事は個別配膳となり、客や従業員どうしの接触を避けるためにパーティションを設置しマスクなどを着用する必要がある。娯楽施設では人と人の間隔は十分に開ける

図 1：企業倒産件数の推移



出典：株式会社帝国データバンク

(<https://www.tdb.co.jp/tosan/covid19/pdf/tosan.pdf>)

ことで、収容力も少なくなる。それらは大きな変化を要求し「楽しさの創出」の新たな試みを求める事となる。逆にこれまでの観光特有の「集まる事が生む楽しさ」は少なくなる。

緊急対策であり、かつ国単位の事業であるので、このような変化が起こるとしても、それは非難すべき事ではない。観光産業を構成する各業種業態そして観光地の運営などの面から状況を点検し、今後の方向を議論する必要がある。

3. 観光地の構造と緊急経済対策

「GoTo トラベル」は、旅行業が販売する旅行商品を対象とした助成であるために、当該商品に含まれる施設等は直接効果を得るであろうが、同時に観光地の観光資源の利用や催事の運営に正負の効果を与えられよう。

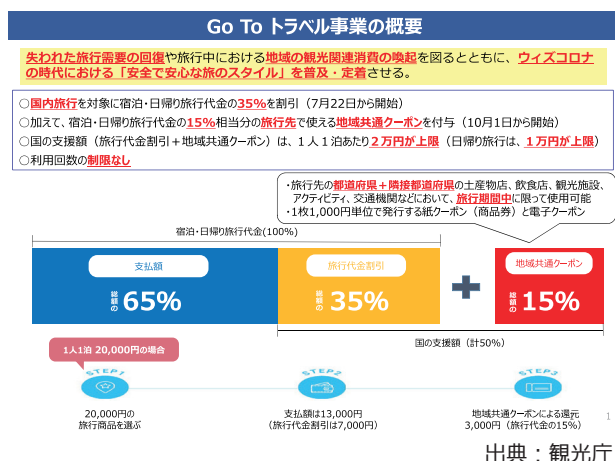
観光地の特性、観光経営の構成の差により効果は異なる事になる。

(1) 催事や文化財の観光地が抱えた問題

観光地においては、密集状態を避けるためにイベントの多くが春以降中止のままであり、イベントが生み出す旅の価値（伝統文化の鑑賞、集団心理に由来する心理効果等）を多くの観光地が喪失したままである。

音楽のライブコンサートやマルシェそして山車や踊りなどの人々が練り歩く伝統的な祭行事などが中心の観光地では、「GoTo トラベル」事業が開始された場合でも、感染防止策の徹底を前提に催事の再開は限定的となる。企画の改編が必要で、それ無しではコロナ禍の前の状況には戻れないと考えるのが妥当であろう。

図2：GoTo トラベル事業



街並や建物などの文化財を保護公開している観光地において「GoTo トラベル」事業と併用の地域振興券があるとしても、運営方法の改編は、重要な課題として検討が必要であろう。

(2) オンラインツアーなどへの関心拡大

このような状況の中で、オンラインツアーと呼ばれる新しい観光商品のジャンルが伸びた。観光（地）を舞台にツアーガイドが景観や文化財さらに物産や食などを案内するものである。

中には申し込みをすると、ツアーに先立ち特産品が送られてきて、食べ物であれば、それを摂りながらオンラインで話を聞くものがある。さらに、会議アプリを用いるツアーでは、参加者がガイドなどと会話を楽しむ双方向性もある。

オンラインツアーは、実際に実施されるリアルツアーの事前広報との見方もあろう。それも確かだろうが、他方で外出自粛を求められている生活において、デジタル化の進展が観光の新しい活用法を創り出したとも考えられる。自宅などで「一定の時間を観光地とリンクさせ、そこに供されるリアリティを消費する」と言う生活形態がかなりしっかりと根付いたと考えられる。これは、実際の旅行とは別に旅行記やガイドブックの閲覧と似た側面を持っている。

(3) 観光資源のオンライン世界での利用

もちろんオンラインツアーで「GoTo トラベル」事業を使い割引を受ける事はできないが、イベントや景観・文化財鑑賞の様な規制を受けずに成長した領域として銘記すべきである。

音楽ライブの世界では、ストリートミュージシャンが街頭で演奏し、通行人が立ち止って鑑賞する様子や投銭する動画をYouTubeで多く閲覧できる。このようなライブはインディーズ音楽家のスタイルである。以前は、投銭が収入であった彼らも、今はオンライン世界と言うパブリックな世界からも収入を得るに至っている。

街頭ライブ演奏の背景を観ると、観光地の一角であったり、彼らの登場が人々を集める街角であったりする。現在、Covid19で街頭演奏が出来なくても、オンラインツアーと同様に観光地の景観は彼らの演奏には不可欠なのである。

観光地の景観や文化財の画像や映像が通常の生活で環境音等として使われる事は今に始まった事ではないが、ASMR (autonomous sensory meridian response、聴覚や視覚への刺激によって感じる、心地良さ等の感覚) の活用などで、現在もその可能性は広がっている。さらにアニメに観光地の景観イメージが用いられ、コンテンツツーリズムが生成する事も稀ではない。

感染拡大防止を行うと同時に、この様な記号(素材)として観光地の景観や地域の生活が外部で利用され、それがリアリティを生む手法が、今後は、観光地運営に多様に生かされねばならないだろう。

4. 観光施設経営

観光地において感染拡大防止策の影響を直接受けたのが、宿泊施設やレジャー施設などの観光施設経営である。

そもそも多くの観光地で、観光経営の組織は互いに競争関係にあり、それが観光地の発展に寄与してきた側面があった。しかし、それは利用者が漸増している状態においての話であり、今回の様に一挙に利用者が無くなる状態においては、観光地の企業等は協同して問題点を明確にし、打開策を講じる必要がある。

(1) 施設の「格」と利用者意識

「GoTo トラベル」事業は政府が旅行代金の一部(35%)を補助する制度なので、形式的には、消費者には、旅行商品や宿泊商品の価格が強制的且つ定率的に低下させられる事となる。これは当然高価格商品では大きな額の、低価格商品では少ない額の価格低下となる。これが起こす問題を考える必要がある。

「GoTo トラベル」の典型的な適用対象である宿泊施設をみてみよう。

例えば、トップクラスの高価格施設では、施設設備・サービスが希少であると同時に、それを利用する宿泊客も行動に高い品位や教養が求められる。このような高価格で高品位な商品をラグジュアリー商品と言う。希少資源の利用を限定し環境などへの負担を抑えるために価格は高額となり商品の提供が限定されるのである。伝統建築を用い、周辺で調達される食材などを

使う食事が提供される場合がこれに該当する。宿泊客には「旅館」が古くから培ってきた宿泊施設を共同利用する品位とマナーが求められる。

他方で、大衆旅行商品としての中・低価格ホテルや旅館等では、宿泊者の多様な利用に対応する施設・サービスの革新が継続的に進行し、常に革新や改装などが行われ、機能性の高い商品が提供される。価格も割安感が得られるように設定され、大衆商品となる。

このような前提で、仮に、高品位で高価格な商品が価格を低下させた場合、価格は低下するが、割引後の価格に相当する従前の商品に比べ、利用者には、より高い品位を維持する負担が暗に増加する。一方で、比較的低価格の商品の価格を低下させてもその負担は少ないのである。

この強制的な価格低下は、「格」を維持し運営する経営者にとって、利用者との摩擦を生じさせる可能性を生む。利用者には高額の商品を割引価格で利用したにもかかわらず、期待と経験に差が生じ、行動が規制され緊張が増す不快感を生みかねない。

経営者は「旅館(ホテル)を知らないお客さんが多くなった」とか伝統的な設備や接客が機能的でない事への「クレームが多くなった」と感じる事が多くなったことがその例である。

(2) 経験価値、主観的品質との関係

35%にも及ぶ価格の低下は、明らかに観光需要を増加させるであろうが、コモディティ商品でない限り、通常の商品階層を超えた需要の動きを生み出す事になるはずである。高級シティホテルや高級旅館に、かなり安い中級ビジネスホテルの通常価格で宿泊できる事となるのである。実際に「GoTo トラベル」事業で高額料金の宿泊施設の需要は増加している。それに伴う問題が発生する可能性も想定する必要がある。

利用者から見れば、単純により良い施設・接客が受けられるとの期待が生まれるであろう。しかし、経営者から見るとその様にして増加した利用者が、今後も商品としてのサービスを共に創り出してくれる共創者になるかについては不安が生じるであろう。特に、彼らが接客の丁

寧さを感じてくれるとしても、高品位な経験価値や旅行の主観的品質を認識して顧客ロイヤリティが高まるところまで行けるか、利用者との消費レベルの違いや知識や経験の差などを理由に不安になるのではないだろうか。

顧客ロイヤリティを示す指標であるNPS®(net promoter score、顧客推奨度)を用いた宿泊産業の専門誌の調査は、ホテルの階層別のロイヤリティを向上させる事項の一つに「客室の清潔」さがあるとしている。高価格になり階層が上がるほど「清潔」さへの要求は厳しくなり基準は上がるのである。加えて、高級ホテルでは「朝食が充実」や「スタッフのサービス」が重要となり、逆に低価格のビジネスホテルでは「駅からの近さ」「無料朝食」が重要となるとされているのである(HOTERES Online、2015/05/28)。食事やスタッフサービスは品位と技量の問題であり、利用者は施設が持つレベルを付度した振る舞いを必要とする。強制的な価格低下が利用者を増やしても、彼らの理解を補完できるものではないところに問題がある。

(3)「レトロさ」と「不完全な清掃」の区別

価格が上昇し品位が上がるほど、主観的評価(主観的品質)が重視されることをこの調査結果は示している。そこには、施設と利用者の感性の一致が求められるのである。従来から「価格と感性」の関係は並行してきたのである。そしてそれを支えるのが客の求める品位に見合う充実した「スタッフのサービス」なのである。

しかしながら、その関係は近年「価格」よりも「感性」の方へとバランスが傾きつつある。古い建物を再利用したゲストハウスや歴史地区のサードプレイスカフェに代表される廉価であるが似た感性や知識を持つ利用者との交流や情報交換を支える施設やサービスの利用が盛んになっている。例えば、古い工場や小売店を改修したレストラン、「昭和の町」などのコンセプトで街並を統一するなどがそれである。上述のストリートミュージシャンが、街の風景を背景に演奏する動画をオンラインで流して視聴者に曲の感性を伝えるのも似た傾向と考えられる。

主観的品質では、感性(リアリティ)の交流

機会の創出が合理的な機能(≒価格)よりも優位となるのである。それ故、現在のビジネスが歴史地区の古い建物を活かしつつ、それを店舗などに転用する事で売り上げを得るのである。

しかしこれは、やはり嗜好の問題であって、「GoTo トラベル」で廉価化した旅行を選択した利用者が、全員この流れの支持者とは言えない。何人かはレトロさが残る施設を上手に利用できない事から、例えば古い施設を使う木造の旅館などに対して「古びた施設で清掃も十分で無く、隣室の音が聞こえて落ち着けない」と、主観的品質をリアリティに転化出来ずにクレームをコメントしてしまうのである。

(4) 従来からの経営と「GoTo トラベル」の弊害の違い

ここで注意しなければいけないポイントは、「掃除が行き届いていない」「古くさい」「アメニティすら用意していない」と言う様な利用者の感想を生む原因が、旧態依然とした経営の商品に対してなのか、主観的品質を取り入れ残され再活用された施設設備や接客の問題にあるのか確かめてみる事である。

従来からの経営の典型と言え、施設が人々の日常生活のレベルよりも多少古くて清潔さに欠けていても、贅沢な料理でこれを補い、客をもてなそうとする一点豪華主義の経営であろう。これに対して、レトロな施設を利用しながら人の交流を生み出し、新しいリアリティと健康や環境に配慮する文脈を重視する経営(持続的経営、SDGs等)なのかしっかり見定める必要がある。其々への利用者コメントが同じであっても「GoTo トラベル」が利用者に与える影響を、区別して理解する事が重要である。

この違いの理解は比較的容易である。「GoTo トラベル」事業は旅行業者を通じて販売されるために、OTA(online travel agent)の予約サイトなどに利用者が宿泊先とした施設へ評価とコメントを残しているのを見れば良い。同事業開始前から施設の清潔さや接客についてのクレームの多い施設が事業開始後も継続して同様のクレームが出ている場合と、事業後に同様のクレームが出始め前後のギャップが露わになっ

た場合では状況が違う。同時にコメント内容も詳細に見ると違いの原因も窺える事がある。

近年、物財の生産と販売において製品の CX (customer experience、性能よりも使用する事で得られる経験価値) が議論される事が多い。消費者がある商品を購入した経験から、その商品を他の人に薦めようとするかどうか (顧客ロイヤリティ) に注目したマーケティングが盛んになってきたのである。

さらに、その延長に、消費者に商品の使い方の背景や状況を動画やシナリオとして提示して UX (user experience、客観的品質に対する主観的品質) を探るようになっていく。このような CX や UX が話題となるのは、商品の購入を単に機能のみで理解しようとはせず、「どのような経験の流れの場面において、消費者は商品を利用するか」と言う「カスタマー・ジャーニー」の考えを重視して販売するからである。

観光に関する経営は、そもそも CX や UX と馴染みやすい。野村総合研究所の田中達夫氏は同研究所の調査を基に『CX 戦略』(東洋経済新報社)の中で、ホテル・旅館、テーマパーク、航空会社、百貨店などでは消費者が自分の購買行動を通じて得た「経験を他者に薦める」顧客ロイヤリティを高めるマーケティングの重要性について述べている。

「GoTo トラベル」事業の実施による外圧的価格低下が、各企業等の実際の活動の中で、以上の問題点を克服し、顧客ロイヤリティ向上の取り組みとしっかり前向きな関係を持つ事が、本来は大切な事である。経営判断を誤らない様に、例えば観光協会やコンサルタントなどが支える必要があろう。

5. 感染防止対策と観光経営のコモディティ化

感染拡大防止策の徹底は、物理的で合理的な条件が揃い機能する事を利用者は要求し、それが満たされていけば、一通りの安心と不安は軽減される。この状態は利用者から期待される機能が満たされた状態であり「顧客満足」(CS、customer satisfaction) と言う。しかしながら、これは経験価値の一部であっても主観的品質の基礎でしかない。この点も CX や DX を進めてい

く上で考えなければならない点である。

(1)「顧客満足」志向の危機

Covid19 の感染拡大防止対策の考え方は拙稿著「玉名クオリティ認証」(よかネット No. 140)に記載した。それは家庭と観光施設(地)の感染防止レベルをまずフラットに連続させ、観光施設(地)を多少高くする事で、観光施設の感染防止策が、家庭に普及する流れを作る事である。

しかしながら、注意すべき点は、感染拡大防止の CS を高める事は、企業あるいは観光地全体に横断的に機能を整えベースラインを形成する必要がある。そのため、全体の底上げになったとしても、個々の企業や観光地の CX や UX を向上させる事につながるとは言えない事を理解する必要がある。まして「GoTo トラベル」では価格が 35% 割引かれるのであるからコモディティ化の圧力は今後高まる事が予想される。旧態依然とした経営をする企業は、余裕を持たなければ、競争に晒されるかもしれないのである。しかし、このような経営の事業者にはその覚悟はある事が多い。むしろ問題は、別の層の経営にあるのである。

OTA の「GoTo トラベル」宿泊予約サイトにおける利用者コメントを見ると、大規模大衆サイトの評価 4.5 程度以上(小規模の高級サイトで 4.3 程度以上)の施設(高評価施設)とそれ以下の評価の施設では、コメントに大きな差がある事に注意を払う必要がある。

「GoTo トラベル」事業開始後も、高評価施設では主観的品質と関係を持つ「スタッフのサービス」の良さへの高評価やコメントと再来訪希望(当該の回が再来訪である事)の記載が多い。逆に、評価 3.5 以下の施設では、物理的な施設設備の不備や接客のクレームが少なくないのである。これらの施設には、大型施設も多く経営者はそれを承知で経営を行ってきたとすれば、問題は高評価な施設と 3.5 以下の施設の間に位置する境界施設で CS 評価が下がりコメントも見られる場合である。境界施設の経営者はこの問題に気づいてないかも知れない。CX 戦略を採っているところも少ないのではないだろう

か。今後の「GoTo トラベル」事業の終了時期に向け、これら境界位置の施設を点検し、経営方針の確認ならびに再構築が必要となろう。

(2) 地域の第二種旅行業の活躍

実際に、高価格で高評価の施設の多くは、経営規模が大きくはないのが現状である。その理由は、人的あるいは食材などの資源供給と運営できるサービス規模の最適関係を維持するための判断からである。

そのために高品位の施設では価格を高額にしており、比較的廉価な施設やサービスでは、利用者の共創を得てバランスを取るのである。さらに湯治宿の様な顧客中心の施設では、従業員全員が顧客の行動や希望を把握した運営をして存続してきたのである。対面関係で利用者個々の行動と施設や接客の調整を行い、その経験を蓄積して対顧客の経営の方向を決めていくのである。この従来からの方法が顧客ロイヤリティ向上の方針となっている。

「GoTo トラベル」事業では、OTA を含め旅行業者の商品が対象である。しかし、スマートフォンやインターネットを利用しない人たちが居る。地域や職場のグループ、湯治など慣例化した旅行をする人たち、彼らの多くは高齢者であり、また直接施設に申し込むか地域に根ざした第二種旅行業（旧国内旅行業）の顧客である。

この種の旅行社は、既存顧客を有しており、彼らとの人間関係から得られる旅行行動の特徴を経験として蓄積してきた。それを基礎に旅行を企画催行しているのである。今、それが「GoTo トラベル」の弱点を補完している。

特に、近県の同業者と協力し宿泊施設などを確保し、顧客に丁寧に電話等で連絡を取り旅行機会を創造している事は特筆すべき点である。

実は、ここにも顧客ロイヤリティの概念が適用される。前述で引用した NPS® 調査を旅行業に行った結果も公表されているが、評価の高い企業の満足度は「柔軟なプラン設計」と「予約後のアフターフォロー」の充実、つまりカスタマー・ジャーニーへの対応の良さなのである（HOTERES Online、2019/10/31）。スマートフォンやインターネットでの情報取得や契約は難し

いが、旅行を楽しみたい人々にとって、彼らの行動特性（≒カスタマー・ジャーニー≒ UX）を知ったサービスが顧客ロイヤリティに繋がる事がここでも示唆されるのである。

九州の各自治体では、それぞれ独自の旅行割引制度を実施している。第二種旅行業は、感染拡大防止策を踏まえ、これらの制度を十分に活用して「GoTo トラベル」以上の割引を得られる企画を作成した。

6. まとめ

Covid19 の感染の波は今後も訪れるであろう。観光産業界は辛い時期が続くが、ここでリスク耐性を強化すると同時に、時代の流れに合う経営体質を構築する必要がある。政府も「感染拡大防止と観光需要回復のための政策プラン（令和2年12月3日）」を示して支援の継続を表明している。

Covid19 の感染拡大で一時止まった様に見えた観光の動きが「GoTo トラベル」事業の実施を通じて少しずつ回復してきた。その流れは、従来からの問題をより明確にし、そして今後のために取り入れるべきピボットの方向を明らかにしている。

なんと言っても、まず安全衛生のベースラインづくりや危機管理・持続可能性への配慮の重要性があげられるであろう。そして、高級旅館と第二種旅行業の動きから示唆される「顧客ロイヤリティ」重視の経営の重要性が、CX の議論を待つまでもなく指摘できよう。

観光地のイベントが中止となってもオンラインツアーや観光資源などのデジタル化が進む現状からは、社会の観光に対する新しい期待や観光地運営とテクノロジーの結びつきの重要性も浮き彫りになっている。

拡大してきたインバウンドが一時止まり、訪日客が激減した事で、日本人観光客と訪日客が求めるリアルへの違いも明らかになってきた。「GoTo トラベル」の35%割引は利用者の増加を生んだが、商品階層をめぐる経営者の困惑も生んだ。

これらの問題点の解消、そしてピボットへの前向きの姿勢を作るために、もう一度、観光地

の事業を単純化して運営方針を整理・再構築する必要もあるであろう。ここ10年ほど盛んな、温泉地や歴史観光地におけるゲストハウスの経営や地域適合型の宿泊施設の商品づくりなどの動きを教材に、肥大化したビジネスを整理する事は大切なことである。

(むらかみ かずお)

宗像・日の里団地モデル

～既存住棟を活用した
生活利便施設づくり

山田 龍雄

九州で最大級の団地である福岡県宗像市日の里団地で、興味あるプロジェクトが動き出している。

日の里団地は、昭和46年(1971年)に日本住宅公団(現:都市再生機構、UR)が開発した70超棟の集合住宅、約3千戸の戸建て住宅、集合住宅内に配置された生活利便性施設からなる団地である。

日の里団地も開発後、概ね50年が経過し、少子高齢化が進み、今では高齢化率35.2%(令和2年10月末住民基本台帳)となっている。また、エレベーターのない5階建ての住棟の4、5階では空き室も多く、URは宗像市と連携し、ハード、ソフト両面から再生の取り組みを行っている。

その再生事業のひとつとして、平成30年(2018年)に階段式の5階建て住宅10棟が建っていた敷地、約1万8千㎡を対象とした事業コンペが令和元年9月に実施された。同年12月に住宅メーカー8社、西部ガス(株)、東邦レオ(株)

の計10社から構成された「福岡県宗像市日の里団地共同企業体」が事業者として選定された。

開発の土地利用は戸建て住宅エリア(戸建て64区画)と生活利便施設・住民の交流拠点施設(以下「コミュニティ施設」という。)エリアからなるが、この開発でユニークなのは、既存住宅をリノベーションしてコミュニティ施設として活用しようとしていることである。

このコミュニティ施設プロジェクトの中心人物の一人が西部ガス(株)の今長谷氏(営業本部・都市リビング開発部 暮らし・まちづくり推進グループ)である。西部ガス(株)は、北九州市小倉区城野の開発プロジェクト「ボン・ジョーノ」のタウンマネジメント組織である「(一般社団法人)城野ひとまちネット」から業務委託を受けており、その責任者としてマネージメントしていたのが今長谷氏であった。

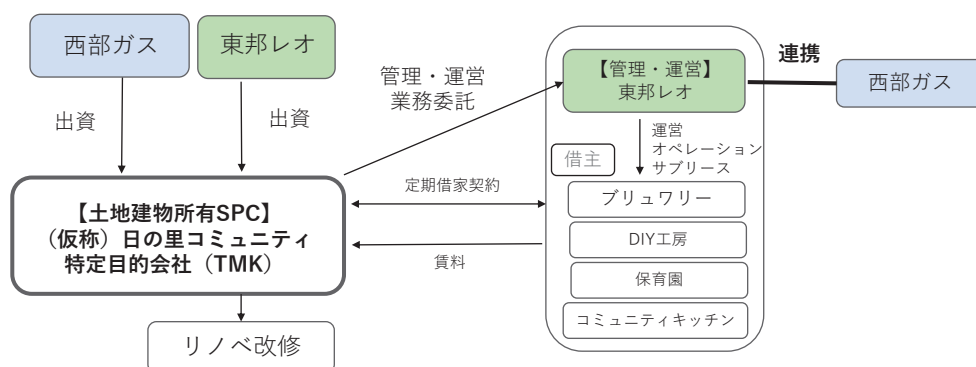
今長谷氏とは、3年前の平成30年(2018年)当時、九州大学工学部建築学科に在籍されていた柴田准教授(現、大分大学建築学科准教)の紹介で、ボン・ジョーノのトリセツ(取説)の改定のお手伝いをする機会に初めてお会いした。この仕事のときに、ボン・ジョーノをはじめ、住宅地のエリアマネジメントについて、いろいろと勉強させていただいた。

今回、このコミュニティ施設プロジェクトの責任者が、今長谷氏であることを知り、早速、連絡を取り、このコミュニティ施設づくりについて取材をさせていただいた。

●運営スキーム

コミュニティ施設の管理、運営体制は、西部ガス(株)、東邦レオ(株)の2社の出資及びハウスメーカー8社の協力により設立された「日の里

日の里コミュニティ施設
プロジェクトの体制
出典:ハイブリット型団地
再生説明資料





ハイブリット型団地のイメージ
(資料：ハイブリット型団地再生説明資料より)

コミュニティ特定目的会社（以下TMKという。）である。その所有責任者が西部ガス（株）、管理・運営責任者が東邦レオ（株）という立て付けとなっている。コミュニティ施設は、東邦レオ（株）がTMKと定期借家契約を締結し、TMKに地代と建物の借家料を支払う仕組みである。東邦レオ（株）は、コミュニティ施設に入る企業や団体からテナント料を徴収し、運営していくこととなる。

建物は、建築後50年近く経っているため、玄関の底部分や外壁においてコンクリートの爆裂も多くみられた。

今長谷氏に「外壁改修まで行うのでしょうか、外壁改修までしたら運営は厳しいのではないかと」と問うと「完璧に外壁改修を行うのは事業計画上、厳しいので、緊急性が高い必要な個所の改修は行うが、長期での事業計画は想定していない。この既存住棟を活用してのコミュニティ施設は、10～15年を想定している。きっかけとして地域の交流施設としての仕掛けができればよいと思っている」とのこと。このコミュニティ施設としての拠点づくりの成果は、の開発に引き継がれていくのではないかなと思う。

また、西部ガス（株）と東邦レオ（株）は、出資額の多寡に関わらず、立場や収益などを同等にすることとしている。

●コンセプトはハイブリット型団地再生

今長谷氏から提供していただいた説明資料には、団地再生の4つのコンセプトが示され、「ハイブリット型団地」と命名されている。最初、このコンセプトネーミングを聞いたときには正直、何を意味しているのかよく理解できなかった。

日の里団地モデルのコンセプト

- ① 過去から現在へとこれまで50年間続いてきた日の里コミュニティを未来に向けて次の50年間をデザインする。
- ② コミュニティを人と人の繋がりという狭義のものだけではなく、持続可能性を軸に据え、社会のあり方を常に考えるものとして捉える。
- ③ 豊かな自然とおいしい食、そして歴史的文化遺産・・・守り続けてきたものを大切にしながら、新しい風や多様なものを受け入れる。
- ④ 新たなチャレンジを起こし、進化するコミュニティを実現する場づくり

た。

しかし、改めて読んでみると、既存住棟をコミュニティ施設として活用することによって、「次世代に引き継ぐ遺産（レガシー）」と「新たなコミュニティづくり、新たな住宅地づくりなど、新たな付加価値を創造していくこと」を掛けあわせていることを「ハイブリット」という概念で示していることが理解できる。

●地域とネットワークをつくりながらのコミュニティ施設づくり

このコミュニティ施設は、日の里東小学校の正面道路に面して建っている48号棟を改修しているため、「さとづくり48」と名付けられている。

コンセプトは決めたものの、施設には、当初からどのような機能を入れ込むのかは決めておらず、地域のニーズや日の里団地を元気にする機能を吸い上げながら、決めていく手法を取っている。

「さとづくり48」チームは、小学生や中学生との総合学習を通して子どもたちの意見も取り入れ、また、平成27年（2015年）から日の里コミュニティづくりの拠点となっている「(NP0) CoCokara ひのさと」の活動や意見も参考にして進めている。

今長谷氏は「このプロジェクトの主役は地域の皆様であり、我々は地域が盛り上がっていくためのより良きサポーターである」ことを強調



生活利便&交流施設としてリバージョン予定の48号棟～「さとづくり48」

されていた。

現在、コミュニティ施設の内容で決まっているのは、地ビールを醸造・販売するブリュワリーやDIY工房、保育所分園、コミュニティカフェ、コ・ワーキングスペース、障がい者の就労支援施設などであり、1階部分は令和3年(2021年)春頃のオープンを目指している。

私が訪問した日は、保育所分園の内装工事に取り掛かっている最中であった。

地ビールは委託製造、販売ではなく、東邦レオ(株)自身が、地ビールの酒造免許と販売免許を取得し、取り組む予定である。このコミュニティ施設は、地域のニーズを取り入れ、施設に相応しいと判断された機能が加わり、年々進化していく予定である。しかし、運営的には赤字にする訳にもいかなく、ボランティアだけの機能導入はできず、そのバランス、匙加減が難しいのではないかと老婆心ながら感じた次第である。

●団地の中央部に共有緑地を配した戸建てエリア

64戸の戸建てエリアも特徴があり、通常の基盤の目のような区画配置、あるいは4～5区画を共有道路でつないだクルドサック方式ではなく、エリアの中央部に緑地の共有地をつくり、豊かな緑・里山を背にして64戸の家が立ち並ぶ区画割とされている。来年の令和4年(2022年)4月ごろの入居開始を予定している。

まずは、今春には、1階と2階の一部が完成するコミュニティ施設のオープンが楽しみである。
(やまだ たつお)

近 況

50年後の未来を妄想する

表紙の人口ピラミッドを見て、感慨深いものがある。1964年の東京オリンピックの年、中学1年生であった私は、商店街の電気店で色薄く、画像が粗いカラーテレビでオリンピックの開会式を眺め、バレーの東洋の魔女、体操のチャスラフスカ、マラソンのアベベ2連覇、柔道のヘーシンクに敗れた神永など、今でも多くの感動シーンがよみがえってくる。

今年の東京オリンピックは、開催されたとしても観客は少なく、現地では寂しいオリンピックになるかもしれないが、それでも57年前と同じように世界中の人々に幾多の感動を与えてくれるものと思う。

しかし、当時の高度成長時代、57年後に日本の人口が少子高齢化等によって、これほど逆ピラミッドになっていくことを予想した人は、どのくらいいたのであろうか。

57年の間に最も進化し、私たちのライフスタイル、働き方に変化を与えたものは、コンピューター技術、IT環境ではないかと思う。

これまで手作業でまる一日かかっていた作業が数分で完成させることができる時代となったことを考えると、隔世の感がある。また携帯電話の普及は、個人々のつながりを迅速化し、手軽になった反面、いつでもつながることで逆に時間のゆとりがなくなっているようにも感じる。

新しい年を迎え、これから50年後、どのような世界が描かれるのか。勝手ながら妄想してみた。私は、とっくにこの世に「さよなら」をしているはずなので、50年後の世界は見られないのは残念である。

- ・ドローンタクシーが、高速道路の上をスイスイと飛んでおり、料金は地上タクシーよりは3倍以上高いが、交通渋滞エリアは結構利用は多い。まさに映画ブレード・ランナーの世界、手塚治虫の鉄腕アトムの世界がイメージされる。

- ・地上は、すべて自動運転。電気自動車が走っており、交通事故は極端に減る一方、自動運転を嫌う人の人間操作自動車と自動運転車との交通事故における責任の所在で裁判が増える。
- ・VR技術の発達で、外に行かなくてもショッピング気分に入ることができ、ますます通販を利用する人が増える。配達はドローン自動配達車が近くの拠点地まで運んでくれるので、今日頼んだ品が数時間で届くようになる。
- ・一人で生きるのが、ますます楽な時代となり、成人人口の一生独身者の割合が半分以上を占めるようになる。(2020年：男性26.6%、女性17.8% 国立社会保障・人口問題研究所推計値) 個独化はますます進むが、新たなつながり、グループ活動は多様になってくる。
- ・会議室では、遠隔地からの参加の人が、3Dで座席に映しだされ、バーチャルな会議が普通になっている。仕事の出張で移動する機会は、極端に減り、鉄道等の公共交通手段は観光が主目的となり、より快適な電車が走るようになる。
- ・リアルタイムで放映する「テレビ」は無くなり、個人々が好きな時間に蓄積された画像を選択し、映像を楽しむテレビ時代となっている。放映料は高くなるが、バーチャルテレビBOXに入ると、立体的な放映も楽しむことができる。等々

個人々、想像するイメージは違うかもしれないが、新年を迎えて50年後を妄想してみるのも楽しいものである。(山田 龍雄)

総 地域を維持するための方策

昨年のコロナ禍において、テレワークは一つの働き方として多くの人に知られることになった。

(一社)テレワーク協会では、「テレワークとは、情報通信技術(ICT = Information and Communication Technology)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと」と記されている。在宅勤務、サテライトオフィスなどいくつかの形態がある。

働き方は住む場所に関わっている。日本では、1998年の国土のグランドデザインの戦略「多自

然居住地域」に現れた。都市部居住の団塊の世代の退職後の問題に対して、ライフスタイル変革への志向や帰農運動、ふるさと回帰・循環運動など、多様な居住形態の選択が可能だと示された。そして2008年国土形成計画の中で「二地域居住」の促進が掲げられ、これはICTツールの発達、高度な情報通信網の整備、地域間の時間距離の縮小化など、次々と進化していく技術や生活基盤が、働き方と住居の次の可能性を示すものであった。さらに、2011年東日本大震災の発災がこれを後押することになる。その後、二地域居住を志向する新たな実践者が、若い世代を中心に現れてくる。現在、これらの先進事例として、よく登場するのが、島根県海士町や徳島県神山町などである。

そして、2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症の対策として、テレワークやリモートワークが一般社会に認知された。各地の自治体では、リモート活用によるテレワークやコワーキングスペース整備などが予算化され取り組まれている。人口減少の回復を目指す地域では、誘致に熱心なところも見られるが、これを契機に、移住定住の受け皿づくり、今の状況を利用するだけではなく、いま住んでいる地域を住民がきちんと見つめる時間がある今こそ、産業や雇用、定住への基本的な問題解決への取組を進めて欲しい。

人口が減少し、高齢化が進み、就業者、働く人が減る過疎地域に共通しているのは、地域の経済活動や地域活動が回らなくなっていることであり、農業や林業だけで生活を維持できる人は少なくなり、さらに人の行き来が縮減するなか、観光業や小売、飲食業だけで生活できない人も増えていると思われる。

これから、コロナ対策によって、人の流動が可能になったとしても、都市への通勤・兼業に頼らざるを得ない状況は続く。しかも、地域の農林業は、生産する人、運ぶ人、加工する人、販売する人など、多くの場面で人手不足は顕著になる。

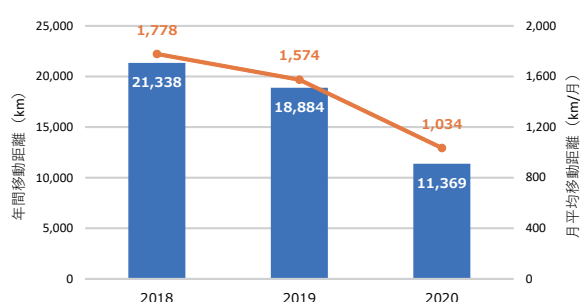
そのうえで、活性化のために観光や交流を目論んで、新規の農家レストランや農家民宿、土

産品開発等を展開しようとしても難しい。そこで、活用できる資源は何か。多くの過疎地で大きな雇用力は役場である。これを活用できないだろうかと考えた。その一つの可能性として、島根県海士町が始めた「特定地域づくり事業協同組合」方式の活用である。これは、雇用された社員はマルチワーカーとして「海士町複業協同組合」に所属し、組合に参加・協力する複数の会社等に時期に応じて従事することで、複業による多種多様で新たな働き方を行うものである。海士町だけでなく、各地で行われていた半農半漁という暮らし方につながるものである。社員が複数の事業に従事することで、繁忙期や閑散期の人手不足と人余りの解消が期待できる。兼業や副業の勧めが世に出回りつある現在、二地域居住のような住み方と働き方がセットになり、選択性が増すことは良いことであり、地域を支える多様な業種を経験し、横のつながりもできることは、地域の連帯感を築くこともできる。こういう地域再生に向けて実現可能な取組を行なっていきたい。（山辺 眞一）

● さあ、どこへ行く 2021 年

Google マップはほとんどの方が使ったことがあると思います。一方で、そのサービスの一つであるタイムラインは意外と使っていない方は多いのではないのでしょうか。簡単に内容をご紹介しますと、スマートフォンの GPS データや写真の Exif 情報などを基に、ユーザーがどこを移動したかを振り返ることができるサービスです。もちろん、プライバシーの設定等でサービスを利用しないようにすることも可能なのですが、個人的には後々その日に自分がどこにいたかを振り返ることができるのが便利で、サービ

直近 3 ケ年の総移動距離及び月平均移動距離
(※ 2020 年は 11 月末までのデータ)



ス開始当初頃から利用しています。

前置きはこの程度に、今回はこのタイムラインを使って、昨年の自分の足取りを振り返ってみました。

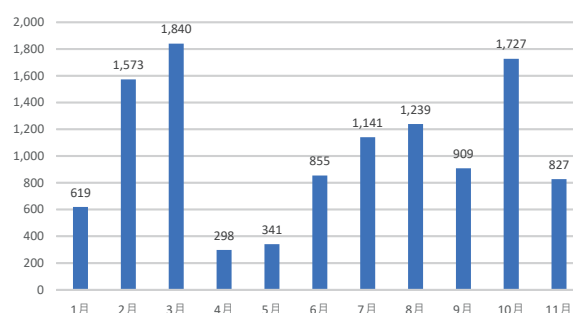
まず、データを確認することができた 2018 年から 3 年間の年間の自動車等（電車や飛行機も含む）による移動距離の比較です。2018 年は海外への出張があったこともあり、2 万キロを超えていましたが、年々減ってきています。

月別の平均値を見ても 2018 年は 1,778 km / 月、2019 年は 1,574 km / 月だったものが、2020 年は 1,034 km / 月（11 月末時点までの平均）と前年比で約 1/3 も移動距離が短くなっていました。さらに 2020 年の月別の移動距離を見てみると、2 月、3 月までは 1,000 km を超えていましたが、4 月、5 月はともに 500 km 未満となっていました。例年であれば、業務的にも移動が多く、GW 等の長期休暇もあるので、2,000 ～ 3,000 km 程度は移動していることを考えると、改めて緊急事態宣言による影響は大きかったのだと感じました。その後は徐々に移動距離は伸びてきたものの、9 月には再び 1,000 km を割り込みました。10 月は現地の調査が多かったこともあり、新型コロナウイルスの影響下では最も距離が伸びていましたが、（記事執筆中の 2020 年の残りのスケジュールを見ても）結局昨年は一度も 2,000 km を超えることなく、一年を終えました。

● どうなるニューノーマル

最近では新型コロナウイルスに対するワクチンや抗体に関して明るい兆しのニュースも見られる一方で、発症者数は増加の傾向にあります。先行きは依然不透明な中で、テレワークやリモートワークといった流れはさらに加速してい

2020 年の月別移動距離 (km)



くのではないのでしょうか。或いは、5G の登場により、現地に行かずに楽しめるエンターテインメント（xR など）も今以上に普及していくと思われれます。

「石の上にも三年」といいますが、3 年あれば変化も常態になり、移動をしないことが当たり前になっているかもしれません。

とはいえ、打ち合わせの道中に立ち寄った定食屋や、たまたま見かけたコスモス畑、はたまた或いは山中の空き家等、現地から発信される観光コンテンツなどでは中々出てこない、その地域の色や空気が発想のヒントになっていることも考えると、「リモートでもできる」常態というのも悩ましいものです。（櫻井 恵介）

総 さらに女性が活躍する時代に期待する

昨年の 11 月末に私が住んでいる香陵校区自治協議会（あすねつと香陵）において、青少年育成部会、PTA との連盟による防火や防災のための夜回りパトロールが実施された。

私は、3 年前から自治協議会安心安全部会長の任命を受け、校区独自のハザードマップの作成、防災訓練企画など、地域防災の啓発と組織体制づくり等の活動をしている。

この夜回りパトロールには毎年参加しているが、今年の夜回りパトロールは、少し様子が違っていた。参加した 20 数名の小学生の中に男子児童は 4 名程度であり、ほとんどが女子児童であった。

PTA 会長や保護者などの話を聞くと、「今は、女性の方が元気がいいですよ。何のイベントでも女性が多く参加します。」とのこと。

私は、常々、地域活動をしている中で、地域のなかには優秀な女性はたくさんいるのに、なかなか表に出てこないのは地域にとって損失であり、今よりもっと、表に立って活躍する女性が多く出てくれることを願っている。しかし、なかなか女性の方々も遠慮して、リーダーになってくれる人も少ないのが現実である。

今回の夜回りパトロールでの女子児童の元気よさを見てみると、あと 10 ～ 20 年後は、北欧なみに女性政治家が多く出現する世の中になっていくのではないかと夢見た瞬間であった。

10 年後であれば、女性の国会議員が 1/3 以上（現在の女性国会議員は約 1 割程度）となる時代を体感できそうだが、20 年後の体感は難しそうである。（山田 龍雄）

総 コロナに振り回された 1 年を振り返る

昨年は、御多分に洩れず新型コロナウイルスの感染拡大や収束状況に振り回された一年でした。

年度末の 3 月末を何とか乗り越えた 4 月～5 月、緊急事態宣言により移動自粛が要請されました。この頃、私の業務分野は社内でも影響が大きいほうで業務量が急減し、先行きに不安を感じる日々を過ごしました。

緊急事態宣言が解除された 6 月以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う「入込客の量や属性の変化」や、新たな生活様式への対応を迫られることによる「生活者ニーズの変化」を把握する業務、「変化に対応するための打ち手を考える業務」などが徐々に増え、何とか慌ただしい年度末を迎えることになりそうです。忙しいということは有り難いことなのだと、改めて感じています。

仕事の内容や進め方も、当然ながら変わりました。観光施策の柱として、人材育成、観光商品開発、国内外観光プロモーション、デジタル化、基盤整備、推進組織・体制づくりといったこれまでの定番の項目に加え、感染症対策の維持・向上、観光産業の変化対応力・しなやかさの向上といった要素が加わりました。特に感染症対策についてはほとんど基礎的な知識がないところからのスタートだったのですが、文献・事例・業界団体ガイドラインを読み込み、講演会に参加する等、最も強化した分野でした。

また、オンライン会議サービスの普及のお陰で、それぞれの分野で長年ご一緒させていただいてる各分野のプロフェッショナルの方々、グループ会社との連携がより一層進んだ一年でした。ご一緒させていただいた皆様、本当に有難うございました。

今年は新型コロナウイルスの感染が終息に向かい、国内外の観光需要がより一層回復する一年になりますが、コロナ禍を乗り越え、新たな

業務分野（セクター）を開拓していく一年としたいと思っています。

プライベートでは、マラソン等の大会がなくなり、努力する目標を見失ってしまい、体重3kg増、腹囲は6cm大きくなってしまいました…。この程度に何とか維持していきたいと思っています。

今年も何卒宜しくお願い申し上げます。

（原 啓介）

オタ活コロナに邪魔される

航空オタ8年目に突入。本来であればブルーインパルス東京オリンピックでの様子などをウキウキでご報告する予定でしたが、皆さんも多大な迷惑を被ったであろう新型コロナに私ももれなく予定を狂わされました。

●聖火到着式

2020年大きく予定が変更したものの一つに東京オリンピックがありますが、開催延期が決定される前の3月に宮城県松島基地にギリシャから聖火が到着しました。

松島基地といえばブルーインパルスの本拠地。聖火到着式で基地の中に入れるのは関係者のみで、式の詳しいスケジュールは公開されませんでしたが、きっとブルーが飛ぶだろうという事で行ってきました。

2日前から行っていた友人が基地周辺で場所の下見をしてくれて、海側の防潮堤の上から見ることにしました。

松島基地の滑走路は、大まかに北東-南西と北西-南東の2つあります。北東-南西の滑走路の方が長く、大きな機体はこちらでないと離着陸できません。



聖火を乗せた記念塗装機

当日はものすごい強風。しかも北東-南西の滑走路に対してほぼ横風が吹いていました。飛行機にとって横風は天敵。聖火を乗せた飛行機が無事着陸できるか心配でしたが、強風の中ふらつきながらもなんとか着陸でき安堵しました。

●楽しみにしていたカラスモーク

ブルーのスモークは、以前はカラーでしたが染料が地上に落ちる問題があったため、現在は白いスモークです。東京オリンピックの開催決定後、防衛省の発注業務にカラスモークの開発業務があったので、オリンピックではカラスモークが復活すると噂になっていました。

聖火を乗せた飛行機が到着した後、聖火到着式が行われている中、ブルーは北西-南東の短い滑走路から離陸し、空にカラーで立派な五輪を描いた…。はずですが、強風の為、描いたそばから五輪は消えていったのでした。

今回ブルーは、トラブルにも対応できるように各色の予備機を用意し2チームの体制を整えていました。

当日は1チーム目が五輪を描き、2チーム目がリーダーズベネフィットの隊形（1機が先頭でその後ろに5機が横に並ぶ形）で飛行しました。結果2チーム目の方がカラーがはっきり綺麗に見えた為、テレビや新聞ではそちらが使われていました。

●今年は

昨年航空祭はコロナのせいで全て中止になり、私がブルーを見たのは、聖火到着式と8月に同じ松島に行った時のたった2回のみでした。

早くコロナが収束して、以前のようにあちこ



強風で描いたそばから消えていく五輪

ちに行けるようになって欲しいです。

そして東京オリンピックが開催される時には、カラーの完璧な五輪が空に描かれる事を願います。
(佐伯 明日香)

総『理想と現実を行ったり来たり』

皆様、明けましておめでとうございます。今年も、これまでと同様に、様々なことにチャレンジしていきたいと思います。ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いします。

●気がつくとちょっと細くなりました

昨年1年間、コロナの影響によりめっきり飲む回数が減ったことが主たる要因だと思いますが、積年の課題であった減量計画がだいぶ進みました。目標とする80キロ未満には到達できていませんが、現在81～82キロをキープしています。おかげさまで、ズボンのウエストも最大で100cmありましたが、今は88cm。これも余裕が生まれてきているので、85cmも夢ではありません。85cmは、記憶が正しければ高校生以来です。引き続き、健康に留意して日々過ごしたいと思います。

●てんやわんやの子育て

長男が今年1月で3歳、長女が昨年11月で1歳となり、ますます賑やかになっています。子どもの成長は、本当に早いし、凄いと驚かされる毎日です。手づかみで食べる、トイレに行く、着替えるなど、つい最近まで出来なかったことが、気が付くと出来るようになっていく。

子どもの特徴を少しご紹介します。長男は、エンターテイナーのようです。歌が好きで、替歌は歌うし、オリジナルの歌も歌います。お話も達者で、普通に会話ができます。長女は、意志が強いように感じます。食事の際、自分なりの食べる順番があるようで、それから外れるとそっぽを向きます。抱っこは良いのですが、ギュッと抱きしめるのは嫌なようで、のけ反って全力で逃れます。毎朝、着替えさせるのに一苦労です。

ほんと、てんやわんやの子育ての日々。妻にだいたい任せているところがあり、ただただ感謝。任せきりにすることなく、出来ることをやっていきます。

●現場感覚をより大切に

弊社の特徴として、地域と関わる業務が多いと思います。理想とする姿を描きながらも、現場の状況に応じてより良い提案をする。今年も、各地でそういうお手伝いをしたいと思います。

(山崎 裕行)

総 あけましておめでとうございます！



10月に入社し、2カ月余り経過しましたが、まだまだ右往左往しています。「この文房具はどこにあるの?」「さっき私が取り次いだ電話をかけてきたのはどういう方?」から始まって業務の内容に関わることで未だに知らないこと・分からないことばかり。かと言って、少々頑張ったからといっていきなり達人の域に達するはずもなく。

今年ちょうど丑年です。私も牛歩で、ほんの僅かずつでも、「止まらなければOK」と進んで行きたいと思います。年を取るのも一分ずつ一日ずつ一月ずつ…、止まることなく、しかし目に見えるほどでもなく。いつか「ここまで来たね」と笑えるようでありたいです。

●今年は

挑戦したい資格があります。業務とともに資格取得に挑戦したいと目論んでいます。

また、プライベートでは、この数年書道教室に通っています。週1回のお稽古ですが、行けない日もあります。とりあえずの目標として、週に一度は筆を執りたいです。

冒頭に掲げたのは「壽は万年 祚は百世」寿命は万年も続き、喜びは百代も続く、といったような意味で、新年の賀詞にふさわしいかと、駄

作ながら掲載させて頂きました。

今年初めて顔を合わせる方も多いはず。どうぞよろしくお願いします。(福吉 聡子)

【総】今年こそは沖縄に行きたい！！

新年あけましておめでとうございます。昨年は、新型コロナウイルスの影響により、毎年1回は必ず行っていた遠い場所への旅行が軒並み中止となり、行けず仕舞いでした。予定していた旅行は大小様々ありましたが、特にゴールデンウィークで行く予定だった沖縄旅行は2年連続中止となってしまったため、キャンセルするのは非常に辛かったです。沖縄の綺麗な海でサンゴ礁や熱帯魚を眺めたり、潮風の音を聞きながらのんびりと過ごすことが、ここ数年の小さな夢でしたが、まさか2年たっても行くことができないとは夢にも思いませんでした。今年こそは、新型コロナウイルスの感染状況を把握しつつ、3度目の正直として沖縄へ行ければと思っています。旅行に無事行けた際はよかネットにて、観光地沖縄の現状を発信しますので、楽しみにしておいて下さい。

年齢も25歳になり、徐々に周りの友人からは結婚報告をもらうようになりました。この間



2016年の沖縄旅行での美ら海水族館

までは、将来誰が結婚するのかなんて、笑い話のような、遠い未来の話のように感じていましたが、適齢期に来ているのだと感じる次第です。結婚報告をした友達には、以前よりも大人のオーラを感じてしまいます。私も、立派な大人になったと思われるように、日々の仕事からプライベートまで全力で取り組んでいく所存でございます。新型コロナウイルスを始めとした病気等に負けないよう、健康づくりを意識して取り組む1年にしたいと思います。

本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。

(仙波 大海)

■BOOKS



天神エリア・博多駅エリアの花の計画

～「花の美しい都市・福岡」の実現をめざして～

福博：花まち研究会

この報告書は、10年前に「(公財)福岡アジア都市研究所」の市民研究員によって始められた「福岡市の美しい都市景観形成のために花を活用する」研究をきっかけに発足し、活動してきた「福博：花まち研究会」が、ここ2年間の研究成果をまとめたものです。

この研究会の事務局長であり、報告書の編集責任者であった藤原さんは、私の大学の先輩であり、公私ともにお世話になっている方です。

藤原さんが「(公財)福岡アジア都市研究所」の市民研究員として「福岡市都心部の花」について研究し、その後、研究会(当初の顧問：樗木 武九州大学名誉教授、現顧問：杉本正美九州芸術工科大学名誉教授)が発足し、活動されていたということを、時々藤原さんとお会いしたときにお伺いしていました。今回、この報告書の印刷にあたり、私から印刷会社を紹介させていただきました。

11月下旬、藤原さんから「報告書が出来上がったので、一部持っていくよ。」と連絡を受け、報告書を拝見したときには、本当に調査や編集のご苦勞を推察し、感銘を受けました。

この研究調査で最も苦勞され、時間を費やしたのは天神・博多駅エリアの100箇所の花壇・

プランター等を選び、冬、春、夏、秋の延べ400回の定点観察を行ったことです。しかも、ほぼ同じ時期、同じアングルで写真を撮影しています。写真撮影の協力者には、丁寧にカメラアングルを説明し、写真撮影に臨んでもらったということです。

この報告書には苦勞の成果である100箇所の花壇・プランターの記録がカラーで掲載されており、福岡都心部の花壇・プランターの記録として貴重な資料となるのではないのでしょうか。

最後に、この研究の成果として「美しい都市景観形成のための提案」がまとめられています。この提案の中で、私が特に共感するものは、提案10と提案11です。花で彩られ、持続可能なまちとしていくためには、行政だけではなく市民、企業等の協働は不可欠です。このためには、体力面及び経済的な負担を市民、企業等で分担

美しい都市景観形成のための12の提案

■提案1～9：各課題への対応策としての提案

提案1：人の賑わう都心部に相応しい花と緑の組み合わせ、常緑の多年草と1年草を

提案2：花壇やプランター自体のデザインと、歩行者空間の一体的なデザイン

提案3：人と車が見ている、景観を意識した中央分離帯の創育工夫

提案4：街路樹は、樹木根元周を大事にする

提案5：都心のど真ん中の駐輪場は撤去移設

提案6：都心部の2つの公園、警固公園、天神中央公園こそ花を楽しむ公園に

提案7：シンボリックな花時計、フラワーロードなど、都心部に花の名所を創る

提案8：見過ごされているアート、記念碑を花映えで伝える

提案9：都心部の貴重な財産3つの河川、水辺の景観を花で活かす

■持続的な維持管理のための対応策としての提案

提案10：都心部の花づくりは市民と企業が主役へ

提案11：プレートを活用、花づくりのための情報発信

■天神ビッグバンへの期待としての提案

提案12：千載一遇のチャンス、天神ビックバンへの期待

し、活動の継続が困難になってきている市民団体へ行政や企業等からの支援も必要と思います。

今でも多くの箇所での花植え作業や費用面で企業が協力しています。福岡市は協力企業等を、これまで以上にPRし、周知することが大切だと思います。企業にとってもイメージアップにもつながり、企業参加をさらに促す効果もあるのではないかと思います。

この報告書にご興味をもたれた方は「福博：花まち研究会 事務局 090-6631-7896」にお尋ねください。（山田 龍雄）

編集後記

過去オリンピックで覚えている事と言えば、1984年ロスアンゼルス大会の開会式ファンファーレ。この印象が強烈で、ロケットマンのことも覚えておらず。所内で話して「そんなことあったっけ？」と他人と私のまだら記憶をつなぎ合わせる作業が楽しかったです。記憶はすっかりアウトソーシングです。（ふ）

「今まで生きてきた中で一番幸せ」「自分で自分をほめたい」「最高で金、最低でも金」「チョー気持ちいい」オリンピックの名言の数々です。開催に賛否両論あると思いますが、せつかくの日本での開催なので、あるならば全力で応援し楽しみたいです。（あ）

よかネット No. 141 2021.1

（編集・発行）

（株）よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

<http://www.yokanet.com>

[mail:info@yokanet.com](mailto:info@yokanet.com)

（ネットワーク会社）

（株）地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6205-3600

東京事務所 TEL 03-5244-5132

名古屋事務所 TEL 052-462-1030